

令和元年度

事業報告書

「忠恕・敬愛・感謝」

目次

I 総務課	1
II 事業部	2
〔1〕 各種委員会・会議等	2
〔2〕 研修	3
1. 外部研修	3
2. 内部研修	3
〔3〕 年間行事	3
〔4〕 アクティビティ	4
〔5〕 実習・見学等	7
1. 実習・見学受け入れ	7
2. 一般の見学	7
〔6〕 ボランティア	7
〔7〕 医務室	8
〔8〕 栄養	10
〔9〕 特別養護老人ホーム	11
1. 在籍	11
2. 退居	12
3. 新規入居	12
4. 入居申し込みと待機者状況	13
5. 入院実績	13
6. 要介護度推移	13
7. 平均年齢推移	14
8. 収入段階、利用料	14
9. 外出	14
10. 外泊	15
11. 面会	15
12. 相談員の業務を振り返って	15
13. その他	15
14. ケアプラン	16
15. 介護	16
〔10〕 デイサービス	18
〔11〕 ショートステイ	19
〔12〕 居宅介護支援事業所	20

I. 総務課

〔1〕 【自衛消防訓練等】

1. 第1回目

日 時 令和元年5月29日 午後2時から午後3時
内 容 総合訓練（避難・消火・夜間想定）
参加人数 約34名（職員・入居者・利用者）
届出関係 川越消防署届出

〔2〕 【職員健康診断】

1. 第1回目

日 時 令和元年8月21日・22日 午前9時から午後0時
内 容 全職員対象
受診人数 83名
協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院
健診内容 問診・聴診・身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・心電図・胸部X P（間接撮影）・尿検査（糖・蛋白・ウロビリノーゲン・潜血）・抹消血液一般（白血球数・赤血球数・血色素量・ヘマトクリット）・G O T・G P T・ γ -G T P・総コレステロール・H D L-コレステロール・中性脂肪・血糖・ヘモグロビンA1C

2. 第2回目

日 時 令和2年2月27日 午前9時から午後0時
内 容 夜勤職員対象
受診人数 46名
協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院
健診内容 問診・聴診・身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・心電図・胸部X P（間接撮影）・尿検査（糖・蛋白・ウロビリノーゲン・潜血）・抹消血液一般（白血球数・赤血球数・血色素量・ヘマトクリット）・G O T・G P T・ γ -G T P・総コレステロール・H D L-コレステロール・中性脂肪・血糖・ヘモグロビンA1C

3. ストレスチェック

日 時 令和元年年8月
内 容 全職員対象
受診人数 79名
協力病院 医療法人社団清心会 至聖病院

Ⅱ 事業部

〔1〕各種委員会・会議等

1. 衛生管理委員会

産業医の指導の下、入居者様や介護従事者の健康管理について検討を行った。特にインフルエンザやノロウイルスなどのほか、令和2年1月からは新型コロナウイルスの感染症についても情報の共有を徹底し、発生・感染しないように従業員は出勤時、検温、手洗い、うがい、マスク着用を徹底し、症状が見られた際の早めの対応等の態勢をとった。また、施設内備品の配置や扱い方、保管方法についても、産業医による巡回指導を実施した。また職員の健康診断、ストレスチェックを実施し、その結果についても再検診等の指導を行った。

2. 事故・身体拘束防止委員会

委員会では、それぞれの事故についての原因究明と再発防止に努め、全職員が統一した認識を持って事故防止に取り組めるよう、施設内で起きた全ての事例を、全ての部署で確認できるようにした。

3. 褥瘡対策委員会

現在褥瘡が発症している方の状態報告と、褥瘡になる可能性がある方について、看護師と栄養士、介護職を協同して改善策を検討した。

4. 排泄委員会

「おむつゼロ」への取り組みで、排泄習慣の確認や排便状況の情報収集を行った。おむつ使用量の減少や、摂取水分量の増加、下剤使用量の減少など、一定の成果が見られた。オムツ対応だった方をトイレに誘導する機会も増えている。陰部洗浄も積極的に行った。より良い排泄介助、より良い介護の提供へと取り組んでいく。

5. 医療的ケア安全対策委員会

認定特定行為業務従事者登録を行った介護職員が、看護師の指導にて安全に医療的ケアが行えるよう、その仕組みや方法について検討した。

7. ケアプラン会議

ア) カンファレンスの開催

ケアプラン会議を開催し、入居者様のケアプランを作成した。それぞれの担当職員と他職種間で意見交換を行い作成した。

イ) 看取り介護

看取り介護委員会を通じて、看取り介護についての指針の見直しや、看取り介護についての体制作りを行った。また、各フロアの看取り介護の事例を発表し、他フロア・ユニットの看取り介護を共有できた。サイボウズ等のシステムを利用し、看取り介護対象者への開始や終了のアナウンスを行い、情報共有を図った。毎月の看取り介護のケアプラン会議では、多職種の意見を「サービス担当者会議の要点」に記録し、家族へも配布し状況報告に努めた。今後も看取り介護に取り組む機会が増えていくと思われるので、ご家族や医師、各職種間で協力して取り組んでいきたい。

8. 入居検討委員会

今年度も申込書の記入内容と相談内容により、県の優先順位の規定に基づき検討した事が確認されている。

9. 入居判定会議

入居申込者の中から優先順位の高い方の面談調査を行い、ご家族の意向とご本人の状態を基に、各フロアでの対応と生活介護上の課題について検討し、会議で検討された方は全員入居可となった。

〔2〕研修

1. 外部研修

研修日	研 修 名	参加人数
6月4日	安全運転管理者等講習	1名
6年17月	働き方改革関連法対策セミナー	1名
6月26日	RICOH Value Presentation 2019	1名
6月28日	外国人技能実習生介護士及び介護福祉士導入について	1名
7月26日	令和元年度社会福祉法人監査研修	2名
11月8日、 12月3日	令和元年度BCP（事業継続計画）研修	1名
合計		7名

2. 内部研修

研修日	研 修 内 容	参加人数
7月11日	アンガーマネジメント研修	16名
12月11日	接遇【話し方】研修	12名
8月26日	看取り介護研修会	20名
12月2日	看取り介護研修会	7名
合計		55名

〔3〕年間行事

月 日	行事名	行事内容
4月上旬	お花見	日東団地周辺等
6月4日	収穫祭 (梅狩り)	収穫した梅の実で梅ジュースを作った。
5月20日	まきば保育園 訪問	近隣の保育園児が来所し、手遊びを披露した。かわいい子供たちとの交流で、たくさんの笑顔を見ることができた。
9月15日	敬老会	敬老会を開催した。昼食会を楽しまれた。

10月6日	八瀬の里祭り	お囃子、模擬店開催と、賑やかなお祭りを味わって頂いたご家族も来所され、最後は参加者全員で記念撮影を行い、終了となった。
11月13日	まきば保育園訪問	保育園児が来所し、手遊びを披露した。かわいい子供たちとの直接交流で、生き生きとした笑顔を見ることができた。
11月30日	お買い物会	日常生活の中で、交流の場所として買い物の雰囲気を楽しんで頂いた。

〔4〕アクティビティ

各ユニットで企画された、季節に応じたアクティビティが、下記の通りに実施された。

表1. 実施アクティビティ一覧

実施日	参加人数	「食」関連	誕生会	季節関連	買い物、行き先	行き先の地域資源
4月	16	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	16	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	13	食事レク		たこ焼き		
	2	外食レク			とんでん	
	16	外食レク		お好み焼き たこ焼き		
	16	食事レク		花見、寿司	はま寿司	
	16	食事レク		花見、寿司	はま寿司	
	10			花見	日東町	日東町
	4	外出レク		花見		
5月	6			薔薇鑑賞	智光山公園	智光山公園
	6			薔薇鑑賞	智光山公園	智光山公園
	5			薔薇鑑賞	智光山公園	智光山公園
	2	外食レク			とんでん	
	16	食事レク		ばら寿司		
	14	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	7	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	15	食事レク	誕生会	お好み焼き		
6月	1	外食レク			ガスト	
	4			菖蒲鑑賞	智光山公園	智光山公園
	6	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	2	外食レク			とんでん	
	16	食事レク		たこ焼き		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		

	16	食事レク		お稲荷さん		
	1	外食レク			とんでん	
7月	14	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	14	食事レク	誕生会	お好み焼き 焼きそば		
	1	外食レク	誕生会		とんでん	
	32	かき氷レク		かき氷		
	16	食事レク		オムライス		
	16	食事レク		サンドウィッチ		
	32	かき氷		かき氷		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	8月	1	外食レク			ガスト
16		おやつレク	誕生会	ケーキ		
32		かき氷レク		かき氷		
14		おやつレク		ケーキ		
16		おやつレク	誕生会	ケーキ		
14		食事レク		素麺		
14		おやつレク	誕生会	ケーキ		
20		かき氷レク		かき氷		
9月	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	15	おやつレク	誕生会	ケーキ		
10月	1	外食レク			ガスト	
	16	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	16	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	15	おやつレク		ケーキ		
	15	食事レク		オムライス		
11月	2	外食レク	誕生会		とんでん	
	1	外食レク	誕生会		とんでん	
	14	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	16	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	14	食事レク	誕生会	ちらし寿司		
	5	外食レク		がってん食堂 大島屋		
	16	食事レク		焼きそば		
	16	食事レク		たこ焼き		
12月	32			クリスマス		
	32			クリスマス		
	32			クリスマス		

	1	外食レク			ガスト	
	16	食事レク		寿司	はま寿司	
	12	食事レク		寿司	はま寿司	
	15	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	16	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	14	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	13	食事レク	誕生会	お好み焼き 焼きそば		
	16	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	16	食事レク		たこ焼き 焼きそば		
1月	16			オムライス		
	15	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	15	食事レク	誕生会	鍋		
	16	食事レク	誕生会	五目寿司		
	16	おやつレク	誕生会	ケーキ		
	14	おやつレク	誕生会	ケーキ		
2月	14	カラオケレク				
	14	食事レク		フルーツ、 サンドイッチ		
	16	食事レク	誕生会	フルーツ、 サンドイッチ		
	16	おやつレク	誕生会	シューパ [®] フェ		
	8	おやつレク	誕生会	ケーキ		
3月	13	食事レク	誕生会	寿司	はま寿司	
	2	食事レク	誕生会	寿司	はま寿司	
	14	食事レク	誕生会	寿司	はま寿司	
	16	食事レク		ハンバーガー、 リゾット		
	16	食事レク		ちらし寿司		
	9			花見	施設敷地内	施設敷地内
	16	食事レク		お好み焼き		
	16	食事レク		ちらし寿司		

〔5〕実習・見学等

1. 実習・見学等受入

項目	実習日時	人数	内容・目的
大東西小学校町探検	11月12日	39名	地域の小学生が町の社会資源を探検して回る活動で、見聞を広める。
川越市立大東中学校社会体験学習	2月17日～19日	3名	学校では得られない経験を通して、豊かな感性や社会性、自立心を養い、豊かに生きる力を育む。
川越市立大東西中学校社会体験学習	1月28日～30日	2名	
計	3件	44名	

2. 一般の見学

月	件数	人数(名)	月	件数	人数(名)
4月	8	10	10月	3	9
5月	2	3	11月	2	3
6月	6	10	12月	4	7
7月	1	4	1月	1	3
8月	3	7	2月	5	7
9月	1	2	3月	3	5
			合計	18件	34名

〔6〕ボランティア

月	件数	人数	詳細
	人数		
4月	2件	5人	書道、ハーモニカ演奏、折り紙、琴
	5人		
5月	13件	24人	書道、ハーモニカ演奏、折り紙、傾聴
	24人		
6月	14件	23人	書道、ハーモニカ演奏、折り紙、大正琴、どじょうすくい、民謡
	23人		
7月	12件	21人	書道、ハーモニカ演奏、折り紙、琴
	21人		
8月	6件	8人	書道、ハーモニカ演奏、折り紙、大正琴
	8人		
9月	16件		書道、ハーモニカ演奏、折り紙

	33人	
10月	13件	書道、ハーモニカ演奏、折り紙、傾聴、八瀬の里祭、大正琴
	19人	
11月	10件	書道、ハーモニカ演奏、折り紙、琴、大正琴、サックス演奏
	17人	
12月	10件	書道、ハーモニカ演奏、折り紙、サックス演奏
	12人	
1月	8件	ハーモニカ演奏、折り紙
	8人	
2月	7件	ハーモニカ演奏、折り紙、大正琴、サックス演奏
	9人	
3月	0件	
	0人	
合計	111件	
	179人	

〔7〕 医務室

主任 轟木まり子

『健康管理』に伴う基本方針に基づき、入居者様および利用者様に対し健康管理および医療処置を実施する。

「健康管理」に伴う基本方針

- ・ 入居者様の生活に障害となる疾病や症状の、健康面からの管理
- ・ 入居者様の快適な生活をサポート
- ・ 他の職種間との協働で健康管理サービスを提供
- ・ 入居者様の意思を尊重し、入居者の健康管理サービス（医療処置）の提供

1. 予防医療

ア. 入居者様の健康状態の把握

嘱託医による回診を月1回実施。

イ. 医療機関および医師による検診の実施

(1) 健康診断の実施

帯津三敬病院の医師および看護師が来診し健康診断を実施。

健康診断受診結果については配置医へ回診時に報告。受診結果に応じて、提携病院での受診対応

(2) 狭山市に住所のある入居者様は提携病院（狭山市内）で健康診断を実施

ウ. 流行性疾患蔓延の予防

(1) 肺炎球菌ワクチン接種の実施

(2) インフルエンザ予防接種の実施

エ. 感染の予防

(1) 新型コロナウイルス対策

- 密集、密接、密閉厳禁の徹底
- 厚生労働省からの対策周知
- 手指消毒・検温・マスクの徹底
- 検温（37℃以上職員就業停止）
- 面会制限
- ボランティア対策

(2) インフルエンザ、ノロウイルスの流行期

- 職員全員マスク着用・検温を実施
- 職員、入居者様に感染症が疑われる場合は
 - 職員玄関に感染状況を掲示し、職員へ周知
 - 入居者様の早期居室対応、病院受診

(3) 感染症対策委員会を定期的に開催し、情報を共有

2. 治療医療

ア. 的確な症状の把握

- (1) 介護職員の報告を把握し、バイタルサインの確認、異常症状発生以前からの状態の確認と変化した全身の状態の観察
- (2) 医療機関およびご家族等からの情報は、施設内での情報共有
- (3) 必要時に医療機関を受診、定期受診を継続

イ. 症状に適した処置の実施

- (1) 症状に応じた対症療法を指示または実施
- (2) 配置医の指示を受け、入居者様の処置を実施。
- (3) 医療処置の経管栄養・吸引・外科的・皮膚科的・泌尿器科的処置、湿布、点眼を実施

ウ. 内服治療への援助

- (1) 配置医による定時薬、臨時薬の服薬継続の確認（定期回診）
- (2) 臨時薬が処方された際は内容、内服方法を介護職へ申し送った。
- (3) 入居者様の状態に応じて、錠剤を粉薬へ調整

エ. 褥瘡の予防

(1) 毎月、第一金曜日に褥瘡予防対策委員会を開催

- ① 褥瘡発生者、予防者について清潔・栄養・除圧の側面から評価し必要なケアを検討
- ② 褥瘡発生者は医師の診察・処置対応し、褥瘡状態を他職種と共有
- ③ 褥瘡予防者の皮膚の経過観察

3. 入居者様の意思を尊重した健康管理サービスの提供

- ・入居後の健康状態の変化に合わせ、リビングウィルを確認
- ・入居者様、ご家族に確認後、受診・治療・ケア援助

4. 看取り介護への取り組み

- ア. 看取りの時期について配置医のからの判断を受ける
ご家族が理解されているか相談員、介護職、介護支援専門員と確認
入居者様およびご家族の死に関する要望を確認
- イ. 入居者様の状態変化の際はご家族様への報告
- ウ. 入居者様の夜間急変時に、看護師は24時間のオンコール体制で対応
- エ. 提携病院と受け入れの調整

5. 均一な医療サービスの提供

- ア. 毎朝の申し送りとカンファレンスを随時実施し、入所者様の状態把握や情報を業務内で共有
- イ. 実施した医療処置、健康状態、受診結果について記録（ケース入力）
緊急時に適切な対応、関係部署との連携

6. 災害・非常時への準備

- ア. 災害・非常時用保管場所（3階エレベーター前倉庫）に応急処置用品の保管
- イ. 非常時持ち出し品一覧表を確認、全職員に周知
- ウ. 応急処置物品は消費期限があるため、数量の検討と物品を見直し

〔8〕栄養科

管理栄養士 主任 山田 みゆき

重点目標として、1. 「食べる喜びを、生きる喜びへ」2. 「個人への最適な栄養ケア」3. 「衛生管理の徹底」の三点を挙げ活動を行なった。

1. 「食べる喜びを、生きる喜びへ」

通常の食事では、入居者様の身体状況や嗜好、食べやすい食事形態に配慮し、出来る限り個人の状態に合わせた形態の提供が出来た。

毎月の行事食以外の食事レクでは、ユニット調理を基本に、ちらし寿司・焼きそば・たこ焼き・お好み焼き・オムライス・サンドウィッチ等バリエーションに富んだメニューを企画した計画書に沿って、入居者様の目の前で調理実演することにより、食事が提供されるまでの工程を含めて楽しんでいただく事ができた。

おやつレクでは、恒例のロールケーキの他、パンケーキ・ホールケーキ等の入居者様が調理参加しやすいおやつの提供、またシューパフェ等新たなメニュー

にもチャレンジすることができた。食事レク、おやつレクいずれも嚥下状態に合せ都度形態の検討を行い、個人の状態に合わせた提供ができた。

2. 「個人への最適な栄養ケア」

入居者様全員を対象とし、栄養ケア計画書の作成を行なった。栄養スクリーニングを行い、アセスメントを実施すると共に、高リスク者には2週間に1度、中リスク者には1か月に1度モニタリングを実施しながら、3か月ごとの評価を基にプランの確認や変更を行った。低体重や体重が減少傾向にある方、食事摂取不良や体調不良の方への対応として、各部署と情報を共有し、補食や嗜好・嚥下機能に合った食事を提供しながら日々の体調管理に努めた。栄養ケアカンファレンスにおいては体重コントロールのための低カロリー・甘味料の使用や、排便コントロールのための水溶性食物繊維使用について提案することで個人の体調管理に努めた。

3. 「衛生管理の徹底」

施設食事サービス業務全般（献立の確認・指示、食事提供前の確認、食数の指示・管理、食事箋の作成・管理、検食の実施、衛生チェック等）において、施設内関係部門・委託業者との連絡調整を図ることができた。

感染症流行時期には平常時の対応に加え、施設と委託業者間での情報共有をより密にし、緊急対応について確認することができた。

毎月第四火曜日には栄養管理委員会を開催し、各部署及び委託業者と食事対応や提供メニューの内容について良かった点や改善すべき点を話し合った。年度初めには年間のテーマを決め食欲向上に向けた取り組みを行った。（今年度は『週2回BGMを放送する』）

〔9〕特別養護老人ホーム

生活相談員 遠藤孝治

1. 在籍

入居者様の年齢が高齢なる中で、長期入院、看取り介護の状況がある。3月31日の在籍者は90人となっている。

療養型施設への転出、入院の長期化や死亡等での空室日数があり、平成31年度の在居率は91%、平均在籍者数82名である。

次に入居して頂く対象者へは、当施設「優先入居に係わる取扱規定」による優先順位に基づき、入居順位検討結果を令和2年3月末に送付している。ご家族や関係者各位に連絡し、入居して頂けるように手続きを進め、平成30年度における退居日から新規入居日までの期間は平均約16.3日間である。

表1に示す通り、平成31年度の男女比率は、男性が34、女性66%となり、前年と同様に女性の入居割合が高くなっている。

表 1. 平成 31 年度入居者男女比率（令和 2 年 3 月 31 日現在）

	平成 30 年度		平成 31 年度	
	人数	割合	人数	割合
男性	27 名	30%	31 名	34%
女性	64 名	70%	60 名	66%
合計	91 名	100%	91 名	100%

2. 退 居

表 2 に示すように、平成 31 年度の退居者は 33 名であった。

表 2. 平成 31 年度退居者一覧

年 月	退居者数	退居理由
平成 31 年 4 月	1 名	死亡 1 名（病院）
5 月	4 名	死亡 3 名（看取り 1 名病院 2 名）療養型 1 名
6 月	1 名	療養型 1 名
7 月	4 名	死亡 2 名（病院）療養型 2 名
8 月	2 名	療養型 2 名
10 月	3 名	死亡 1 名（病院）療養型 1 名 市内 GH1 名
11 月	2 名	死亡 2 名（病院 2 名）
12 月	6 名	死亡 6 名（病院）
令和 2 年 1 月	4 名	死亡 2 名（看取り 2 名）療養型 2 名
2 月	5 名	死亡 3 名（病院 1 名）看取り 2 名 療養型 2 名
3 月	1 名	死亡 1 名（病院）
合計	33 名	

表 3. 年度別退居者数の推移（人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平 31	1	4	1	4	2	0	3	2	6	4	5	1	33
平 30	1	2	0	2	3	1	2	5	3	1	4	3	27

3. 新規入居

表 4 に示す通り、新規入居者様は 32 名、その内自宅待機 12 名、医療機関 12 名、その他介護施設 8 名となっている。医療機関のサービスを継続的に利用しながら、特養を待機されている。自宅待機者の方々も、短期入所介護を利用されている。それぞれの部署と連携を取りながら、今後も迅速な入居に努める。

表 4. 平成 31 年度新規入居者一覧

年 月	新規入居者数	入居前の居所
4 月	2 名	在宅 1 名 回復期医療機関 1 名
令和 元年 5 月	3 名	在宅 1 名 介護保険施設 1 名 医療機関 1 名
6 月	3 名	介護保険施設 2 名 在宅 1 名
7 月	2 名	在宅 1 名 介護保険施設 1 名
8 月	4 名	回復期医療機関 2 名 在宅 1 名 医療機 関 1 名
9 月	1 名	療養型 1 名
10 月	2 名	回復期医療機関 1 名 介護保険施設 1 名
11 月	5 名	医療機関 2 名 介護保険施設 3 名
12 月	3 名	在宅 2 名 医療機関 1 名
令和 2 年 1 月	1 名	在宅 1 名
2 月	4 名	医療機関 2 名 在宅 2 名
3 月	2 名	在宅 2 名
合 計	32 名	

表 5. 新規入居者の介護度と男女構成比

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
入居者(人)			14	16	3
女性			12	12	2
男性			2	4	1

表 6. 年度別新規入居者数の推移

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平 31	2	3	3	2	4	1	2	5	3	1	4	2	32
平 30	0	3	1	1	2	2	1	3	3	4	3	1	24

4. 入居申込みと待機者状況

平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月の間の新規申込は 48 件であった。医療機関からの申込が多数を占めており、在宅系では家族間でのトラブルによる申し込み取り下げが数件あった。令和 2 年 3 月末における入居待機者数は、116 人となっている。

取下げ理由として、入院中の重篤化及び在宅生活が困難となり老年病院への措置入院が散見された。

5. 入院実績の推移

平均入院期間が 5 週間超えである事から、急性期医療入院ではなく慢性期であるが退院が困難である事が顕著であった。

又、入院中の予後が芳しくなく入院先医療機関から療養型への転院が多く見られた。

6. 要介護度推移

表9の通り、身体の状態の変化が大きく、今年度一年間の介護度は、平均介護度4.0となっている。

表9. 要介護度の推移（平成31年度平均介護度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
介1(人)												
介2(人)	4	4	4	4	4	4	3	2	2	2	2	2
介3(人)	28	29	29	30	31	29	29	31	31	32	28	26
介4(人)	37	38	37	38	38	38	41	42	41	35	37	37
介5(人)	24	24	24	23	22	23	23	23	25	25	27	26
平31平均介護度	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0
平30平均介護度	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9

7. 平均年齢推移

入居者平均年齢88.18歳（男性：83.65歳、女性：90.23歳）

表10. 平均年齢の推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
女性	90.27	90.30	90.50	90.60	90.42	90.45	90.15	89.70	89.96	90.06	90.45	89.93
男性	82.66	82.74	83.40	83.30	83.80	83.88	83.96	84.05	84.37	83.94	83.66	83.80
平31年度全体	87.98	88.07	88.31	88.45	88.33	88.35	88.22	87.97	88.15	88.17	88.28	87.84
平30年度全体	87.98	88.07	88.14	88.36	88.25	88.26	88.85	88.80	88.98	89.22	88.25	89.06

8. 収入段階、利用料

収入段階による利用料は、第2,3段階が43となっている。女性の新規入居者様の第3段階人数が微増。第2段階が大きく減少している。

収入段階	平成31年度末		平成30年度末	
	人数	構成比率(%)	人数	構成比率(%)
第1段階	0	0	0	0
第2段階	9	10	14	15
第3段階	34	37	31	34
第4段階	48	53	46	51
合計	91	100	91	100

9. 外出

平成31年4月1日から令和2年3月の間の、入居者様がご家族と外出した回数を示したものが表12である。外出要因として、主に自宅やご家族の家への外出や、外食、通院などが上げられる。

今年度は、のべ260名の方々が外出されている。

表12. 家族との外出回数

外出回数	人数	比率 (%)
5~10	81	31
4	45	17
3	19	7
2	60	23
1	55	21
0	26	1
計	260	100

10. 外泊

今年度は外泊の件数は9件（2名）となっている。特定の利用者様が複数回の外泊をされている。

11. 面会

今年度の面会者の総数は、延べ8,420人と多くの方に来て頂けた。1日の面会者の平均人数は23.1人であった。

ご家族が来所の際は、なるべく日頃のご様子を伝えることにしている。

令和元年12月より、新型コロナウイルス感染症が中国より感染拡大し日本に於いても1月末より流行拡大となった。

社会福祉施設・医療機関も例外なく面会禁止の対応を取らざるを得なくなり、新年度においてはネットワーク面会（LINE）を試験的に導入し、遠隔での面会及び報告等が増える事が予想される。

12. 生活相談員の業務を振り返って

台風19号からの罹災者受け入れから始まり、日本での新型コロナウイルス感染拡大と、未曾有の天災に見舞われた年度であった。

入居受け入れについては一昨年より医療機関からの新規受付に重点を置いており、医療的な検査を受けた上での入居となり感染症の所在が明確なままでの入居支援が行えた。

今後の課題としては、在宅生活を送られている要介護者の入居に際し、居宅支援事業所から信憑性の高い情報提供書を受け取れるかで、リスク軽減に繋がると思われる。

13. その他

(1) 居室の有効利用

フロア職員人員減少に伴い、重症度の高い短期入所者の受け入れが実質困難であった。

空床受け入れ段階に於いても被感染者でない担保を相談員自ら証明する事は困難であり、長期利用をされている短期入居者の利用に制限する事となり減少傾向であった。

(2) ご家族への連絡

状態の変化についての報告を各階フロア職員の協力も得られ、相談員不在時の報告を行なえた。相談員勤務時には入院者状況の確認（日中は月曜日、金曜日行い夕方 17：30 以降は毎日）を行い状態変化が見られる場合は逐一報告に努めた。

(3) 保険情報提供

厚生労働省及び、各種外郭機関の情報収集に努め「介護保険」に留まらず「医療、障害保険、障害者年金、自立支援医療受給者証」の情報提供を昨年同様に行った。

14. ケアプラン

介護支援専門員 黛 裕子

【ケアプラン】

担当職員により、事前にどのように関わりたいか、何を重視しているかを考えてきてもらい、それらを多職種間で協議し、協議の結果、優先課題が変わることもあり、それらを皆に周知し統一したいケア内容を立案できた。入院や認知機能低下や高齢に伴い身体機能の低下により、状態変化が見られた際は、ケアプランの見直しを図り、現在の状態にあったケアプラン作成が行えた。

【カンファレンス】

各専門職それぞれに、課題として考えていることをあげてもらい、一人では気づけなかった課題や、アプローチ方法を見出す事ができ、入居者様一人ひとりに対し、個別性のある内容にできた。また、看取りの振り返りカンファレンスに於いては、事前にユニット内での話し合いの結果を持って臨んでいる事により、フロア職員全体による意見と多職種とでの振り返りカンファレンスを行う事ができた。また、家族からの相談や、今後の方向性の話し合いの場が必要な際には、サービス担当者会議を開催し、家族と多職種による話し合いの場を設け、家族支援に努めた。

【モニタリング】

作成したケアプランの情報を共有化し、フロア職員全体でモニタリングを行った。確実に実施できたかの確認方法として、個人のケース記録にも入力を行うよう指導した。できるけれどしていない事、やってみた結果できなかった事には、ケアプラン内容から外した。できるけれどしていない事で継続してもらいたい事には、アプローチ方法を変えるなどし、ケアプラン内容を継続し評価につなげた。

15. 介護

入居者様が安全・快適な生活を送って頂ける様、ユニットリーダーがユニット会議や職員同士の話し合いの場を作る事で職員一人一人が入居者様と真剣に向き合い、統一した対応に努めた。今後は、よりご家族様とのコミュニケーションを図る事で、更なる生活の充実を図っていく。

事故防止においては、骨折1件発生した。その後、原因と再発防止についてユニット会議を行い統一した対応に努めた。また入居者様のADLの状況を常に把握し、未然に防げる様にユニット会議や職員同士の話し合いの場を作り未然に防げる様に対策・対応していく。また、入浴・排泄のケアについても安心・安全なケアを常に検討し、適切なケアに努めていく。

入居者様の健康管理においては、食事・水分量が下降している入居者様への対応として、職員間で意識を持ち、医務や栄養課、ケアマネ等と連携しながら食事・水分量の確保に努めた。今後も食事・水分への意識を継続して、確保に努めていく。感染症対策としては、換気・清掃・うがい・手洗いを職員全員に伝達し徹底したのでインフルエンザも発症せず対策がとれた。

次年度も、引き続き感染対策・感染予防に努めていく。

入居者様に楽しみのある生活を送って頂ける様、毎月1回のペースで、昼食レクや季節に合わせた全体レクを実施した。次年度も引き続き、誕生日会や季節に合わせたレクリエーションを企画していく。

環境整備として入居者様の車椅子(空気圧の点検)と部屋の清掃(床、ポータブル清掃、洗面所、口腔コップや歯ブラシの消毒)を常勤・非常勤協力の元で計画的に実施してきた。今後も職員一同が清掃についても他の日常生活ケアと共に重要である事をしっかり認識し、より良い日常生活が送って頂ける様に清潔保持に努めていく。

(1) 身体ケア

入居者様の体調管理においては、特に風邪症状、インフルエンザ等の感染症の拡大防止に重点を置き、看護師との連携を強化し、迅速にユニット封鎖、居室隔離等の手段を講じる事で最小限の拡大に抑える事が出来た。今後も感染症対策においては、季節を問わず一年を通して予防に努め、職員一人一人が危機意識を持って発症を未然に防いでいく。また、新型コロナウイルスの発生に伴い早急に施設全体で感染予防策等を講じ、万全を期し、入居者様、職員の生命の安全確保に努めていく。

(2) 精神的ケア

入居者様に楽しみのある日常生活を送って頂く為、外出レク(お花見等)、お誕生日レク、食事レク等を積極的に開催し、大変喜ばれる様子が見られた。また、食事レクにおいては、宅配サービスを利用する事により、施設内での企画が難しい食事の提供(お寿司)に繋がる等、新たな楽しみを増やす事が出来た。今後も入居者様の意向をしっかりと汲み取り、また入居者様が出来る限り一緒に企画参加していく事で、より良い生活支援へと繋げていく。

(3) 環境整備

環境整備においては、職員の意識にも改善が見られ、居室、浴室、入居者様の使用

物である車椅子等の清掃を中心に職員一人一人が計画的に取り組み、清潔保持に努める事が出来た。今後は、新型コロナウイルスの発生に伴い、手すり、ドアノブ等を含め、接触頻度の高い箇所を今まで以上に重点的、且つ丁寧な消毒作業に努め、危機感を持って取り組んでいく。

入居者様が安全・快適な生活を送って頂ける様、ユニットリーダーが中心となり、対応に努めた。今後は、よりご家族様とのコミュニケーションを図る事で、更なる生活の充実を図っていく。

事故防止においては、骨折2件発生した。ゼロを目標に、転倒・転落事故では、入居者様のADLの状況を常に把握し、未然に防げる様に対策・対応をしていく。また、入浴・排泄のケアについても安心・安全なケアを常に検討し、適切なケアに努めていく。

入居者様の健康管理においては、食事・水分量が下降している入居者様への対応として、職員間で意識を持ち、医務や栄養課、ケアマネ等と連携しながら食事・水分量の確保に努めた。今後も食事・水分への意識を継続して、確保に努めていく。感染症対策としては、退院された入居者様からインフルエンザが発症したが、早めの隔離対応と感染予防対策により、職員への感染は無く、最小限の感染に留める事ができた。

次年度も、引き続き感染対策・感染予防に努めていく。

入居者様に楽しみのある生活を送って頂ける様、毎月1回のペースで、レクリエーションを実施した。次年度も引き続き、誕生日会や季節に合わせたレクリエーションを企画していく。

離職者ゼロを目標に掲げ、新入職員4名と育児休暇から復帰された職員1名の指導について、ユニットリーダーが中心となり、スキルアップに努めた。不慮の事故により職員1名を失ったが、4階職員は離職する事なく業務を遂行している。

〔10〕 デイサービス

生活相談員 細田恵実

【安心してご利用いただけるデイサービスの運営】

ご利用者様、ご家族様に信頼されるデイサービス作りを目標とした。

9月より月曜から金曜の営業とし、土曜を休業とした。

【利用内容の明確化】

新規実調時にサービス利用時の細かな時間及び活動内容の説明。

【利用受け入れ態勢の強化】

- ① ご家族様のご希望に合ったご利用曜日を相談にて設定し入浴形態もご本人様の意思に沿って実行受け入れ行った。
- ② 新規ご利用前の見学を進め、ご家族様ご同意の上での契約を行った。

【個別援助の充実】

ご利用者様の多彩なニーズに応え、アクティビティ及び各種体操に加え積極的な声掛けを実施し、機能訓練士の指導の下、個別機能訓練を行った。

感染予防に対してはご利用者様来所時に「うがい」・「手洗い」をして頂き、利用者様帰宅後のサニタリー空間及びデイルーム、テーブル、手摺等アルコール及び床面は次亜塩素消毒を毎日実践今後も引き続き感染予防に取り組む。

【営業内容】

定期的な居宅支援事業所への挨拶を行い利用者獲得に努めた。

【登録者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
30年度	60	60	60	60	61	59	57	57	58	58	58	59
1年度	57	59	63	64	64	59	58	60	61	60	59	58

【一日平均利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度	18.6	18.6	18.8	18.0	17.7	18	17.4	17.9	18.6	17.5	18.8	19.3	18.3
1年度	19.1	18.9	18.8	20.9	21.4	24.9	24.6	24.8	25.1	24.1	23.3	22.4	22.4

【延べ利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30年度	465	502	488	469	479	450	470	465	464	421	452	503	5628
1年度	505	502	470	564	593	515	566	516	501	482	464	493	6171

【欠席内容】

	欠席者数	SS利用	都合	入院	他SS利用	体調不良
30年度	1360	39	267	266	178	340
1年度	1114	229	211	233	72	369

〔11〕 ショートステイ

生活相談員 佐藤 嘉昭

【事業報告】

- ・ 利用延べ日数：8,289日(対年間目標：+603日)
 - 内訳：*空床利用延べ日数：1,671日(全体：20.16%)
 - *退所延べ日数：1,187日
- ・ 1日あたりの利用者数：22.65人/日(対年間目標：+1.65人/日)

〔12〕居宅介護支援事業所

管理者 佐藤 聖子

【その一歩先へ】

30年度、「その一歩先へ」のテーマの如く、新たなマネジメントスタイルを取り入れ、時代の流れに沿ったマネジメントへと転換の一歩を踏み出しました。管理者の変更、人員不足、稼働率の低迷を経ての飛躍等大きな変化の一年でした。これまでは、法人内でも独立した部署であったものの、他部署との連携の見直しを図り、法人内外の連携の強化を図る準備が出来ました。

○計画実行を経ての課題

30年度計画実行に当たり、「自立支援、利用者本位、専門性の向上、連携・協力、地域福祉」の5項目に対する重点目標は凡そ達成したといえるが、継続的に実行する事に意味があります。又、新たな課題として見出された事項は、「稼働の安定化、専門的職能向上、人材育成と教育、地域福祉活動への参加」です。これらの事項においては、31年度事業計画へ反映すると共に実行実現を致します。

令和2年度 事業報告書

2020年（令和2年）6月1日 発行・印刷

監修・編集 社会福祉法人 芳清会

印刷・製本 社会福祉法人 芳清会

TEL 049-247-7311

FAX 049-247-7312

URL <http://www.houseikai-y.jp/>

E-mail yasenosato@houseikai-y.jp